

天現寺



平成28年(2016年):本堂

本尊・毘沙門天の生まれが寅年寅月寅日であったことから、本堂前には雌雄一対の虎の像がある。



平成28年(2016年):本堂前の虎の像

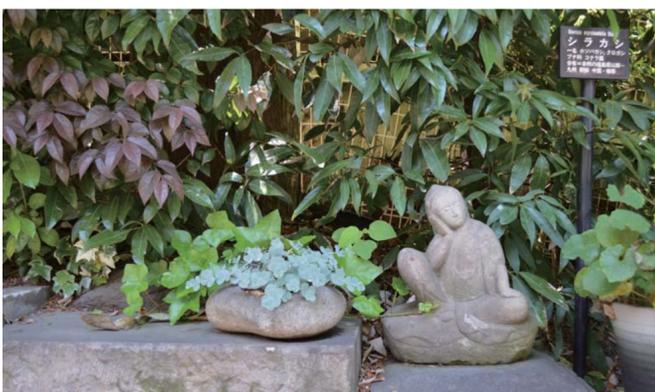


平成28年(2016年):山門



平成28年(2016年):庭園内の手水鉢

刻まれている文字から、浜松城主で、天保の改革を行った水野越前守忠邦から贈られたものと推察される。



平成27年(2015年)

さりげなく置かれた小さな仏像。



平成28年(2016年)

こんなかわいい置き物も。

天現寺は享保4年(1719年)に建立された寺院で、本尊として毘沙門天の像をまつている。毘沙門天は多門山ともいわれる四天王のひとりで、七福神のひとりにも数えられている。憤怒の表情、左手に宝塔を捧げ、右手に矛を持ち、甲冑で身を固めた姿で知られている。天現寺の本尊はケヤキの木造で、高さは約1メートル、平安後期の作と推定されている。



平成27年(2015年):芭蕉の句碑

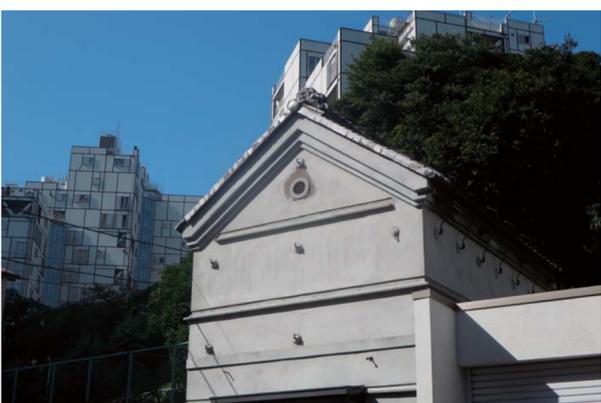
天井画(久國神社)



久國神社
 六本木二丁目1-16にある神社。創建された年月は不詳。皇居内の旧千代田村紅葉にあったが、太田道灌の江戸城築城の際、寛政6年(1465年)に鎮守として、溜池に遷された。その後、道灌より栗田口久國(鎌倉時代の名刀士)作の刀を寄進されたといわれ、久國稻荷神社と称するようになった。永禄3年(1560年)、その地が公用に属したので、寛保元年(1741年)に現在地に遷座し、昭和2年(1927年)10月25日に改称されて、久國神社となった。
 久國神社は、明治7年(1874年)の火災、昭和20年(1945年)の空襲により被災した。現在の社殿は、昭和28年(1953年)に再建されたものである。再建時に描かれた50枚の天井画は、今も鮮明である。
 祭神は、倉稻魂命(うがのみたまのみこと)、穀物の神様である。境内には、猿田彦神社もある。社宝の刀は、現存している。
 港七福神では、久國神社は布袋様である。

※社宝の「刀」は、非公開です。

参考文献:『久國神社由緒記』久國神社



柿 (久國神社)



麻布未来写真館ではメンバーで年に数回テーマを決めてまち歩きを実施している。今回は、麻布と赤坂の境界をめぐる中、途中でこちらの神社に伺った。たまたま神主さんご一家が柿取りをされていた。麻布つながりで、様々なお話を伺い、最後にはとてもおいしい柿をいただき、再会を約束した。

戦災で焼けた社殿を再興された時に、有名画家(浮世絵)に天井画を依頼した時のご苦労や、大切に維持されている様子も伺いながら、色鮮やかな天井画の写真を撮影させていただいた。

